

東京の文化、環境保存の市民有志団体の連合を代表して、貴職が東京オリンピック・パラリンピック組織委員会に対し2020年オリンピックのための計画の改正に必要な措置をとるよう依頼することをお願いするため、この手紙をさしあげます。

私たちはIOCが賢明にも1999年6月のソウル大会でO.M.アジェンダ21を採択され、その前文で当時のサマランチIOC会長が「IOCは、O.M.アジェンダ21に明記された目的達成のために、そのすべての影響力を行使することを約束する」と述べられたと理解しております。同アジェンダの3章2項3節スポーツ施設では「スポーツ施設の新設は現存施設の使用または改良で必要が満たされない場合に限定されねばならない」と明記されております。

残念ながら、現国立競技場の管理者であるJSCは、アジェンダ21の3.1.6, 3.2.2., 3.2.3に違反して、2020年オリンピック、パラリンピックの主会場に新しい施設を建設する計画を立てております。計画中の高さ70メートル、8万人収容の新競技場は必然的に1926年に緑豊かな明治神宮と調和して景観設計された歴史的な神宮外苑地区の破壊を招きます。神宮外苑は、日本人、外国人を問わず、そこに住む人や訪問者にとって東京のオアシスなのです。

2013年8月来、プリツカー賞受賞者の槇文彦氏はじめ、多くの建築家がJSCの計画を批判してきました。

同年11月に私たちのグループは討論会を開催し、またJSCに環境や持続性の観点からの計画の合理性につき説明を求める書状をだしてきました。有田芳生議員の参議院予算委員会の3月2日の質疑にも全面的に協力しました。また、舛添新都知事や、JOCの竹田会長にもO.M.アジェンダ21の勧告にしたがい、新競技場建設計画中止の措置をとるよう、要望書をだしました。

残念ながら、JSCやその他の機関からは、はっきりした回答がありません。日本の関係機関が環境と持続性の考慮を怠っていることにつき、貴職にご注進申し上げ、貴職が日本の当事者に環境と地域特性や持続性に関するIOCの方針に配慮して、直ちに計画を変更するよう、ご勧告くださいますよう、お願い申し上げます。

IOCの方針に従った計画変更は、2020年東京オリンピック、パラリンピックの成功を確実にし、また全ての人々に持続可能な未来を達成することに役立つことと信じます。

神宮外苑と国立競技場を未来に手わたす会

共同代表 清水伸子